（別記）

令和５年度広野町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

１　地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

広野町では、水稲を中心としており、令和４年産米について飼料用米への転換を推進した。また、一方で大豆、そば、麦等を作付けについても取り組んでいるが、例年同様の取組みとなっている。このため、今後において新たな転換を図るため高収益作物等の導入や畑作物への転換と飼料用米も併せて推進することにより、安定的な農業所得の確保と自立的な農業経営を行う必要がある。また、地域における担い手不足や高齢化が懸念されていることから、農地の集積と担い手育成や新規就農者の確保も併せて推進する必要がある。

２　高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

（１）適地適作の推進

適地適作の推進については、関係機関と連携し、各地域の現状を把握するとともに、ほ場の条件等の検討を行い、ほ場に適した転作作物等の作付け推進を行う。

（２）収益性・付加価値の向上

高収益作物及び畑作物の推進を図り、当町の農産物加工施設の有効活用を行い、６次化に向けた商品開発を図る。

３　畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

（１）地域の実情に応じた農地の在り方

当町においては、担い手不足や高齢化が懸念され、今後は、人・農地プランの策定を引き続き推進するとともに、担い手の育成と新規就農者の確保も併せて行う。

（２）水田の利用状況の点検方針・点検結果を踏まえた対応方針

JA 等関係機関及び農業者を含めた話し合いを行い、畑地化や水稲と転換作物を組み合わせたブロックローテーション等の取組方針・目標検討を行う。

４　作物ごとの取組方針等

（１）主食用米

需要に応じた米生産に取り組むことが重要であるため、特別栽培米や有機米の栽培を促進することで付加価値の高い米の生産に取り組む。

（２）備蓄米

出荷業者との連携により、主食用米に変わる作物として生産に取り組む。

（３）非主食用米

ア　飼料用米

疎植栽培、農薬の低減、立毛乾燥等による低コスト化に取り組む。

イ　米粉用米

取組予定なし。

ウ　新市場開拓用米
取組予定なし。

エ　WCS 用稲
取組予定なし。

オ　加工用米
取組予定なし。

（４）麦、大豆、飼料作物
麦、大豆については、各地域の現状を踏まえ、適地適作を検討しながら、出荷業者との連携により生産体制を確立することで作付面積の拡大を図る。また、団地化の推進により低コスト化に取り組む。
飼料作物については、引き続き団地化の推進により低コスト化に取り組む。

（５）そば、なたね
そばについては、各地域の現状を踏まえ、適地適作を検討しながら、出荷業者との連携により生産体制を確立することで作付面積の拡大を図る。また、排水対策等を行い単収の向上と収量の安定を目指す。
なたねについては、取組予定なし。

（６）地力増進作物
取組予定なし。

（７）高収益作物
各地域の現状を踏まえ、適地適作を検討しながら、出荷業者との連携により生産体制を確立することで作付面積の拡大を図る。

５　作物ごとの作付予定面積等　～　８　産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※　農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。